

# 瀬田川プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター

琵琶湖水質担当

昭和56年7月22日

第15報

## 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(藍) <i>Microcystis aeruginosa</i> *	40		○
(藍) <i>Aphanothece clathrata</i> *	60		
(藍) <i>Anabaena macrospora</i> *	60		
(藍) <i>Anabaena</i> sp.*	80		
(珪) <i>Melosira granulata</i>	120		
(珪) <i>Navicula</i> sp.	20		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	40		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	120		
(緑) <i>Chlamydomonas</i> sp.	20		
(緑) <i>Gloeocystis</i> sp.	160		
(緑) <i>Micractinium pusillum</i>	160		
(緑) <i>Quadrigula chodatii</i>	160		
(緑) <i>Planktosphaeria gelatinosa</i>	1440	◎	
(緑) <i>Pediastrum biwae</i>	640	○	
(緑) <i>Crucigenia lauterbornei</i>	320		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	120		◎
(藍) 藍藻綱	240	6.7	26.7
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(珪) 珪藻綱	180	5.1	2.4
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	120	3.4	2.5
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	3020	84.8	68.3
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総細胞数	3560	総体積	8.03E+06
種類数	16	( $\mu\text{m}^3$ )	

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)  
ただし \*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は◎が第1優占種、○が第2優占種  
数字は各綱ごとの占有率(単位:%)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から  
試験的に推定した概算値である。

## 植物プランクトン優占種

第1優占種		細胞数 (細胞数/ml)
緑藻綱	<i>Planktosphaeria gelatinosa</i>	1440

第2優占種		細胞数 (細胞数/ml)
緑藻綱	<i>Pediastrum biwae</i>	640

### 植物プランクトン第1優占種

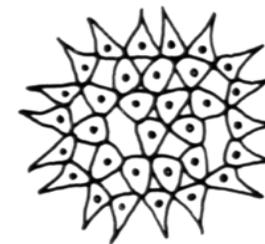


***Planktosphaeria gelatinosa***  
(プランクトスフェリア)

緑藻綱

細胞は球形。若い細胞は杯状の葉緑体と1個のピレノイドを持つ。厚い寒天質に包まれた群体をなす。

### 植物プランクトン第2優占種



***Pediastrum biwae***  
(ピワクンショウモ)

緑藻綱

16, 32, 64細胞からなる群体を形成する。各細胞は1本の角状突起を持ち、突起同士が対をなすのが特徴である。  
琵琶湖の固有種とされ、ピワクンショウモと呼ばれている。